

(別紙様式) 平成29年度 学校自己評価システムシート (私立武陽学園 西武台高等学校・西武台新座中学校)

(A3判横)

目指す学校像	将来の社会の変化に対応できるしなやかな知性と耐性のあるたくましい精神の育成を目指す学校。 激変する社会変化の下、生涯にわたっての学び方を学び、学び続ける方法を身につけさせる学校。
重点目標	1 人間教育を掲げた校訓を尊重する学校運営を基礎とし、進学実績の向上を目指す。 2 中・長期ビジョンに立った施策を基軸に、組織改革・教育改革を推し進める。 3 「いじめのない学校」「災害に強い学校」を堅持し、安全・安心な学校づくりの推進。 4 学校行事・部活動の充実をはかり、心技体の調和のとれた、明るくたくましい健全な精神を持つ生徒の育成を目指す。 5 中学校・高等学校一貫教育コースの確立と両校種間の教育システムの連携を重視する教育の推進。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者評価は学校評価懇話会及び、第三者評価委員の選定状況

第三者評価委員会 出席者 関係者 3名 学校評議委員会 出席者 関係者 4名
---

学校自己評価							学校関係者評価
年度目標					年度評価 (平成30年3月7日現在)		実施日 H30年3月7日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	学習環境と学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力伸長を重点とし、時代に対応した学習指導の改善を図る。</li> <li>学びの基礎力を中高の校種間の連携を通して育てる。</li> <li>指導力向上を図る為、教科研修や全体研修等の研究組織運営をより充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価実施と評価に基づく改善</li> <li>英検等の資格試験への対応を図る。</li> <li>クラッシー導入に伴う一般活用研修の実施と家庭学習時間確保の実践例研修を進める。</li> <li>計画的・継続的な公開授業を通して指導法の改善を実施する。</li> <li>Wi-Fi環境整備と構築。</li> <li>情報処理の一層の一元化を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒進路第1希望実現の伸長度。</li> <li>生徒の家庭学習時間の増加度。</li> <li>授業評価により、教職員の意識向上の具体的な変化。</li> <li>スタデイポッドの活用実績。</li> <li>中高一貫生の「アクティブ・ラーニング」の活用・工夫度。</li> <li>英語「ザ ジングルズ」検定試験の合格度。</li> <li>英検等の資格取得合格度。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路選択上の生徒意識向上と指導の改善は依然難しい。</li> <li>学習時間の増加は伸びが出た。</li> <li>教員授業評価実施は良い効果だが、依然幾人かは成果が難しい。</li> <li>学習ペースは習慣化した。</li> <li>「AGL」の効果が授業評価に反映されつつある。</li> <li>予算を増額し ICT 活用、「ザジングルズ」の充実を図った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路意識向上はアプローチ方法を変えたい</li> <li>家庭学習時間の確保は方法を別途改善するが、まだ方策を更に考えたい。</li> <li>「AGL」及び、「ザジングルズ」とも一層進めることで、生徒の意識変化を社会に通用するものへの基礎を作っていきたい。</li> </ul>
2	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導の組織的・計画的な運営の充実で、進学実績を伸ばす。</li> <li>学習を支援する方法を改善し、学力向上を図る。</li> <li>大学入試改革に対応する施策を実施し、進路実績を高める。</li> <li>学習を支援するIT化を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な進学補講と長期休業中等の指導の強化。</li> <li>習熟度別指導・個別指導・少人数指導の学習支援体制を充実させる。</li> <li>就職活動の支援と充実。</li> <li>難関校・上位校受験の特別対策指導を実施する。</li> <li>学習支援システム、クラッシーの活用を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>難関校・上位校等の進学実績の伸び率。</li> <li>平常時での補講参加状況、家庭学習時間の伸び率及び受験対策への意識調査。</li> <li>夏期等集中的な特別補講による効果と全国模試との関係。</li> <li>就職先の確保の状況。</li> <li>クラッシー導入の結果に見る効果検証。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路実績の伸びは止まった。特に G-MARCH、が厳しい結果であった。文科省の指導が厳しい。</li> <li>就職は大きな成果であった。</li> <li>受験に対する3年生の意識の改善が見込みほど行かなかった。</li> <li>年間の特別補講は内容面では充実した。</li> <li>中学校自立学習ノート等の活用は、順調であった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導の実績向上が大きな課題。方策をより具体化する必要がある。</li> <li>首都圏大学への合格者数減の締め付けに対する対応が急務更に大学入試改革への準備。</li> <li>中高一貫校としての組織と将来に向け独立した分掌を設けたが、その動きがどう反映されるかが今後の大きな課題</li> </ul>
3	生徒指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般教養の涵養と基本的な生活習慣の育成。</li> <li>学校行事・特別活動・部活動の充実。</li> <li>交通事故防止の徹底。</li> <li>いじめ防止対策の推進。</li> <li>防災意識と避難方法の改善。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初の集団宿泊研修の充実。</li> <li>挨拶の日常的励行の指導。</li> <li>服装等の規定の遵守とその指導の在り方を統一化。</li> <li>自転車の安全な乗り方指導強化。</li> <li>スマートホン等の使用マナー改善</li> <li>個人情報の拡散防止とその危険への啓蒙活動を進める。</li> <li>相談室の活用充実。</li> <li>防災訓練実施と地域との連携。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立状況。</li> <li>自転車による交通事故の減少数</li> <li>特別活動・部活動の成果。</li> <li>いじめ防止効果の有無。</li> <li>相談室の活用と職員意識改善</li> <li>インターネット、携帯電話使用方法等のトラブル防止効果。</li> <li>情報機器使用上の規則の作成。</li> <li>地域との連携状況。「ひまわり隊」の活動状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年集団宿泊研修内容は今年も変更したが、挨拶等の効果はあった。</li> <li>自転車の指導は早期に通学路で職員の指導が行われた。</li> <li>各部活動の成果は高い。</li> <li>相談室は活用が高い。多いも課題だが有効であった。</li> <li>いじめはアンケートをとり早めに対応した。携帯の使用についても啓蒙をおこなった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団訓練はより挨拶等の生活習慣の一層の向上を目指す。</li> <li>自転車許可者は引き続き全員保険加入を義務づける。</li> <li>緊急連絡網の充実を推進。</li> <li>新座地区と連携した防災倉庫の、内部備品の充実。</li> </ul>
4	研修体制の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員としての意識向上の為研修体制の改善と充実。</li> <li>新規採用教職員の研修システムの確立。</li> <li>ハラスメントに対する意識改善。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初任者、10年次等を含め、年間を通し計画的な研修の実施。</li> <li>夏季に全教職員の研修実施。</li> <li>秋季授業公開を実施。</li> <li>授業評価の活用。</li> <li>ハラスメントへの資料啓蒙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い教員層とベテラン間の教育指導ノウハウの継承具合。</li> <li>初任者研修による授業力、分掌処理の向上度合い。</li> <li>10年次等の中堅教員への研修への意識改善効果。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の研修は年度当初から組織的に行われた。</li> <li>新しい教育改革の意識を共有するため全員研修を特に取り入れた。</li> <li>新任の研修会を組織的に実施を図り、大きな成果となった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修機関を組織改編したが、特に新任者と2年目研修の指導形態を改革したい。</li> <li>生徒指導のノウハウを含め、教職員として必要な基礎教養の習得を引き続き指導。</li> </ul>
5	開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業及び教育内容の公開。</li> <li>学年及び部活動等からホームページへの積極的な発信。</li> <li>国際理解教育の推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会及び、中学校・塾等の連携を強化し本校見学会の招聘を積極的に実施。</li> <li>ホームページ発信の改善と充実。</li> <li>中学受験者向け教育内容の紹介。</li> <li>オーストラリア校との交流事業の推進。</li> <li>経理公開。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第三者評価委員会の評価を含めた学校自己評価の公開。</li> <li>学校説明会の効果度。</li> <li>オーストラリア「ラインデール校」との交流内容の充実。</li> <li>ホームページのアクセス数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価等も公開を図った。</li> <li>高校、中学校ともホームページの充実をした。</li> <li>経理も公開とした。</li> <li>中学校の入学者は昨年度より増加した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットを通じたホームページの発信を外部機関を活用し、より迅速化したい。</li> </ul>

学校関係者からの意見・評価・要望等
<p>第三者評価委員の構成 大学教授 2名 志木市元教育長 1名 評価は5段階評価 【評価書内容】 (1) 目指す学校像及び重点目標 評価 5.0 (2) 重点目標達成への取組み状況。 評価 4.4 (3) 開かれた学校造りの取組み 評価 5.0 【総合評定 5】</p> <p>【総合評価評】 重点目標が本校生徒の実態に基づいて設定されている。特に進学指導に力を入れ様々に取り組んでいることは評価できる。また部活動においても評価が高い。今後の取組みに期待している。</p>

学校評議員評価
実施日 H29年12月11日
<p>学校評議員構成 保護者会関係者 3名 新座市文化協会 1名 評価は3段階 ABC(321)で比率 A で評価 (1) 目指す学校像及び重点目標 評価 2.7A (2) 重点目標達成への取組み状況。評価 2.4A 【総合評定 A】</p>